Rank(R) R 1 OF 1 Database WPIL

Mode Page

XRAM Acc No: C83-031953

Aluminium plated steel panels treatment by applying aq. aminosilane

soln. and then heating, gives high blister resistance

Index Terms: PLATE STEEL PANEL TREAT ALUMINIUM@ APPLY AQUEOUS AMINO SILANE

SOLUTION HEAT HIGH BLISTER RESISTANCE

Patent Assignee: (NISI) NISSHIN STEEL KK

Number of Patents: 002

Patent Family:

CC Number Kind Date Week

JP 58030372 Α 830222 8313 (Basic)

JP 1880347932 В 880712 8831

Priority Data (CC No Date): JP 81126683 (810814)

Abstract (Basic): Prepn. of aluminium-plated coated steel panel of high blister resistance comprises treating an aluminium-plated steel panel (degreased beforehand) with an aq. aminosilane (pref. an aq. 0.1-10 wt.% aminopropyl trihydroxyl silane soln.) of pH 8-10. Then, the panel is subjected to heating (pref. at 90-150 deg.C for 10-60 sec.) for drying and bake finishing.

The method is useful for improving the blister resistance of baking finish steel panels using aluminium plated steel panels as the base metal. The blister resistance is improved compared to prior art chromate treatments. The method is expected to improve corrosion resistance. (6pp)

File Segment: CPI

Derwent Class: M13; P42;

Int Pat Class: B05D-007/14; C23F-007/00; B05D-003/10; C23C-022/66

Manual Codes (CPI/A-N): M13-B

(C) 1997 DERWENT INFO LTD ALL RTS. RESERV.



⊕Int.Cl.⁴	識別記号	庁内整理番号	❷ ❷公告	昭和63年(1988)7月12日
B 05 D 7/14 3/10	101	Z-8720-4F K-6122-4F		
7/24 C 23 C 22/66	302	Y-8720-4F 8520-4K		発明の数 1 (全6頁)

公発明の名称 耐プリスター性強装アルミメツキ鋼板の製造方法

> ②特 顧 昭56-126683

⑥公 開 昭58-30372

❷出 顧 昭56(1981)8月14日 ④昭58(1983)2月22日

⑫発 明 者 増 原 蹇 千葉県市川市高谷新町7番地の1 日新製鋼株式会社製品 研究開発センター内

⑫発 明 者 山 告 和 焳 千葉県市川市高谷新町7番地の1 日新製鋼株式会社製品

研究開発センター内

明者 ぴ発 高 村 久 塂 千葉県市川市高谷新町7番地の1 日新製鋼株式会社製品

研究開発センター内

⑪出 願 人 日新製鋼株式会社 東京都千代田区丸の内3丁目4番1号

20代 理 人 弁理士 野間 忠夫 外1名

審査官 田中 久 直

1

切特許請求の範囲

1 脱脂処理したアルミメツキ鋼板をHを8~10 に調整した水性アミノシランで処理し加熱乾燥 後、焼付塗装を施すことを特徴とする耐プリスタ ー性塗装アルミメツキ鋼板の製造方法。

2 水性アミノシランがアミノプロピルトリハイ ドロキシシランであり、その処理濃度が0.1~10 重量%水溶液である特許請求の範囲第1項記載の 耐プリスター性塗装アルミメツキ鋼板の製造方 法。

3 加熱乾燥条件が90~150℃、10~60秒である 特許請求の範囲第1項または第2項記載の耐ブリー スター性塗装アルミメツキ鋼板の製造方法。

発明の詳細な説明

焼付塗装鋼板の耐プリスター性を改良した製造方 法に関するものである。

一般に亜鉛メツキ鋼板やアルミメツキ鋼板を下 地金属とする塗装鋼板においては、亜鉛やアルミ ニウムは下地の鉄に比較して卑の電位を示すため 20 所謂犠牲防食効果により亜鉛やアルミニウムが選 択的に溶出し、鋼素地を保護する。該亜鉛岩しく はアルミニウムをメツキした鋼板を下地金属と

し、その上に塗装を施した塗装鋼板の場合は、亜 鉛やアルミニウムの溶出に伴つて発生する水素ガ スや外界から塗膜を通して浸透した水蒸気により 塗膜と下地金属面との間に内部圧を生じ塗膜を押 5 上げ、所謂フクレ(ブリスター)が発生する。

この様なフクレは当然ながら塗膜と下地金属面 の間に空間が生じ、その部分に水分,或いは各種 イオンが浸入し腐食を促進させる。また塗膜欠陥 部や端面からの水分などの侵入についても同様 10 に、その周辺部よりフクレを生じ腐食を促進させ る。

この様な傾向は亜鉛の方が大きく、耐ブリスタ ー性としてはアルミニウムの方が良好な筈である が、通常のアルミメツキ鋼板を下地金属とした塗 本発明はアルミメツキ鋼板を下地金属板とする 15 装鋼板は表面層にシリコンなどの不純物が偏析す るため、或いはメッキ表面のメッキ欠陥などの原 因から最適な処理方法が未だ提案されておらず、 そのため塗膜の密着性も充分でなく、延いてはブ リスター性も良好とは言えない。

> アルミメツキ鋼板の塗装前処理としては陽極酸 化、クロメート処理、リン酸皮膜処理などによる 方法が提案されて来ている。しかしクロメート処 理はクロムの排水処理などの公害問題があるし、

リン酸皮膜処理についてはスラツジ処理の問題が ある。

そこで本発明者等は水系で長期安定性に優れた アミノシランをアルミメツキ鋼板の塗装前処理を 行なうことによりアルミメツキ鋼板と塗料との密 着性、化成処理皮膜としての耐水性に優れ、しか も強料との界面で塗料の硬化剤としても働き公害 防止的観点からも好適な方法を見出すに至つた。

本発明は下地金属がアルミメツキ鋼板である塗 性の向上について提案するものである。

即ち、本発明は

- (1) 下地金属がアルミメツキ鋼板に限定されるこ と、
- (2) 水性のアミノシランで処理すること、
- (3) アミノシラン水溶液のPHを8~10の範囲の弱 アルカリ性に調整して用いること、
- (4) 塗装前に加熱することによつてシランの皮膜 を形成させること、
- こと、

などを主構成要件とする耐ブリスター性に優れた 塗装アルミメツキ鋼板の製造方法に係るものであ

次に之等の要件について詳細に説明する。

先ず本発明に使用するアルミメツキ鋼板は溶融 メツキ,蒸着メツキ,その他任意の方法で製造さ れたものでよい。使用される塗料としては金属と の密着性、耐食性などの観点から主にエポキシ/ 硬化剤系の様に熱硬化性塗料が用いられる。

本発明では塗料系としてピスフェノールA型の エポキシやエポキシーポリエステル, エポキシー アクリル、エポキシーウレタンなどの変性エポキ シ系やポリエステル系或いは変性ポリエステル系 ング剤との反応性の観点から好ましい。

シランカップリング剤の作用機構はよく知られ ているが、シランカップリング剤をRSiXaで表わ すと無機物表面の水分などで加水分解されて

 $RSiX_3+3H_2O\rightarrow RSi(OH)_3+3HX$ となり無機物表面に吸着されてシロキサン結合の 皮膜を形成し緻密な耐水性皮膜となる。

また有機官能基Rは塗料のポリマーと反応し、 密着性の向上に寄与する。

一方、塗装前処理としては無公害の水系処理を 採用出来れば公害処理や防曝設備などが不要であ

しかるに従来、シランカツプリング剤の水系処 理は余り効果が無かつたが、本発明では元来水系 のアミノシランを用い、その好適条件を探求した 点に意義がある。即ち、顔料に非水性ベヒクルと シランカツブリング剤とを加えてアンカー材とす る従来知られている方法ではなく、本発明では塗 装焼付けされて送られた塗装鋼板の耐ブリスター 10 膜と下地金属との間に水性アミノシランを用いて 形成した膜状物を介在させることを特徴としてお り、両者の技術は根本的に相違している。

> 故にアミノシランとしては下記構造のアミノブ ロピルートリハイドロキシシランが適している。

NH2-CH2-CH2-CH2Si(OH)3 15

このことは水溶液中で水系結合により安定に存 在し、水に如何なる割合でも安定に混合出来、貯 蔵においても危険物として取扱う必要がなく任意 に水で希釈したものも保存可能である。また塗料・ (5) その上面に熱硬化性塗料を塗装・焼付けする 20 に対しては前記した如く活性水素を有するアミノ 基が塗料の硬化剤として作用するため塗膜と下地 金属との間に強固な密着が得られる。

> 本発明に使用する水性アミノシランの 1 種であ る水溶性のアミノプロピルトリハイドロキシシラ 25 ンの濃度はアルミメツキ鋼板上に塗布・乾燥後の 皮膜量と関連し、多量に塗布されると、そのアミ ノシランの架橋物自体破壊されたり効果が飽和し たりするので処理水溶液の濃度は0.1~10重量% の範囲内であり且つ処理時間は10~20秒間の範囲 30 でコントロールする必要がある。

また処理液のHは鋼板面を軽度にアルカリ洗浄 するため8~10の範囲にする必要がある。

上記した様にアミノシランはアルミメツキ鋼板 の表面でハイドロキシ基が吸着し、加熱によつて と硬化剤との組合わせ系の塗料がシランカップリ 35 緻密なシロキサン結合の耐水皮膜を形成するこ と、本発明では上面に塗装する場合には水分が残 存していると焼付時にワキが発生すること、など の理由でアミノシランの水溶液を塗布後、90~ 150℃で乾燥する必要がある。

> 本発明は処理工程が簡単でしかも公害処理の必 40 要のないアルミメツキ鋼板を下地とする塗装金属。 板の製造方法であり、耐ブリスター性は従来のク ロメート処理に比較して改良され、延いては耐食 性の向上が期待出来るので、工業的価値が高いも

6

のと考える。

次に本発明を実施例によって具体的に説明するが、本発明はその要旨を越えない限り以下の実施 例に制約されるものではない。

実施例 1

アルミメツキの厚みが夫々片面 8,20,30μの アルミメツキ鋼板類をアルカリ脱盾し、アミノブロピルトリハイドロキシシランの 1 重量% (PH 8.5),5 重量% (PH 9.1),10重量% (PH 10.0)の 夫々水溶液で10秒間浸漬後、ローラーで絞つた。10 この処理板を100℃,60秒間加熱処理した。

次いで、上記処理を施したアルミメツキ鋼板に エポキシ系塗料をプライマーとして 5μ , ポリエ ステル系塗料を 15μ , 2coat-2bakeして塗装鋼板 を作成し、塗膜の密着性,耐食性,耐湿性などの 15テストを行なつた。

なお、塗膜の密着性は表に示す様な3水準の条件の下で行ない、耐食性はJIS 22371の塩水噴霧 試験に準拠し、耐湿性はJIS K2246の湿潤試験に 準拠し、夫々次に示す様な試験項目及び試験方法 20 に基づいて評価した。評価基準は表の欄外に示し た。

ゴバン目エリクセン試験:

JIS K 5400 6.15に準拠し、塗装試験片に対し 1 mm平方のマス目を翻案地に達するよ

うにカツターで切り込み、JIS B7729に規定するエリクセン試験機で押出し、その部分にセロハンテープを貼り付け急速に剝がし、塗装面の異常の程度を観察した。

衝撃変形試験 (デュポン衝撃変形試験):

JIS G3312 8.5 に 準拠し、 直径 12.7 mm (1/2インチ)、重さ 1 kg の重錘を50cmの高さから落下させ、セロハンテープを貼り付け急速に剝がし、塗装面の異常の程度を観察した。

180度折り曲げ試験:

JIS G3312 8.3に準拠し、塗装試験片を 180度折り曲げ、その内側に同じ厚さの板を 所定枚数挟んで締め付け、折り曲げ部にセロ ハンテープを貼り付け急速に剝がし、塗装面 の異常の程度を観察した。

エリクセン押出試験:

JIS K6744 8.2に準拠し、JIS B7729に規定するエリクセン押出機により塗装試験片を6mm押出し、セロハンテーブを貼り付け急速に剝がし、塗装面の異常の程度を観察した。表のExpl~3,10~12,19~21が夫々実施例1であり、Exp9,18,27は夫々従来のクロメート処理材である。

麦

尔

 \mathbf{C}

	•														
	密	着	性		耐食性:塩水喷霧試験					耐湿性:湿潤試験					
実施	200℃、100時間加熱後			(月15 2 2371)1000時間後				(JIS K 2246)1500時間後							
他例	ゴパン 目エリ クセン 変形	衝撃	180月 り間		平坦部	湖河	クロス カツト 部	エリク セン 6 皿押し	180度 2t折 り山	平坦部	端面	クロス カツト 部	エリク セン6 四押し	180度 2t折 り山	
		2t	4t		(mn)	(mm)	田心部	げ部		(mm)	(wa)	出し部	げ部		
1	Δ	Δ	×	Δ	0	17.0	3	0	0	0	1.5	1	0	O ⁺	
2	Δ	Δ-	×	Δ-	0	16.5	3	0	0	0	1.5	1	. 0	O ⁺	
3	Δ-	Δ-	×	Δ-	0	18.0	3,5	0	0	0	2	1.5	0	O ⁺	
4	- Δ	Δ	×	Δ	0	20.0	3.5	O ⁺	O ⁺	0	2	1.5	0	O+	
5	Δ	Δ	×	Δ	0	20.0	3	0	0	0	1.5	1	0	O ⁺	
6	Δ	Δ	×	Δ	0	19.0	3	O ⁺	O ⁺	0	1.5	1	0	O ⁺	
7	Δ	Δ	×	Δ	0	17.0	2	0	O ⁺	0	1	1	0	0	
8	Δ^{+}	Δ	×	Δ^{+}	0	13.0	1.5	©	0	0	1	0.5	0	0	
9	×	Δ	×	×	0	27.0	4	0⁺	O⁺	0	3	2	0	O ⁺	
10	0	0-	×	Δ	0	5,5	1.0	O ⁺	O ⁺	0	1	1.5	0	O ⁺	
11	0	0-	×	Δ	0	5,5	1.0	O ⁺	O ⁺	0	1	1.5	0	O ⁺	
12	0-	Δ+	×	Δ	0	6.0	1,0	O ⁺	O ⁺	0	1	1,5	0	0	
13	0	0-	×	Δ	0	6.5	1.5	O ⁺	O ⁺	0	1.5	1.5	0	O ⁺	
14	0	0-	×	Δ	0	6.0	1.0	O+	O ⁺	0	1	1.5	0	O ⁺	
15	0	0-	×	Δ	0	6,0	1.0	O ⁺	O ⁺	0	1	1.5	0	O ⁺	
16	0	0-	×	Δ	0	5.0	0.5	0	O ⁺	0	1	1	0	0	
17	0	0	×	Δ	0	5.0	0,5	0	0	0	1	1	· @	0	
18	Δ	Δ	×	×	0	9.5	1.0	O ⁺	O ⁺	0	2.5	2	0	O ⁺	
19	0	0-	×	Δ	0	3.5	0.5	0	0	0	1	1.5	0	O ⁺	
20	0	0-	×	Δ	0	3,5	0,5	0	0	0	1	1	0	O ⁺	
21	0-	Δ^{+}	×	Δ	0	4.0	0.5	0	0	0	1	1	0	0	
22	Δ+	Δ	×	Δ	0	4.0	0.5	O ⁺	O ⁺	0	1	1.5	0	O+	
23	0	Δ+	×	Δ	0	3.5	0.5	0	0	0	1	1.5	0	O+	
24	0-	Δ^{+}	×	Δ	0	3.5	0.5	0	0	0	1	1	0	0+	
25	0	Δ+	×	Δ	0	3.2	0.5	0	0	0	1	1	0	0	
26	0	0-	×	Δ	0	3.0	0	0	0	0	1	0.5	0	0	
27	Δ	Δ	×	Δ	0	8.0	1	0	0	0	2	2	0	0,	

注1) 密着性の評価基準

◎:全く塗膜剝離無し

〇:極く僅かに塗膜刹離したもの

△:かなり塗膜剝離したもの

×:著しく塗膜剝離したもの

注2) 耐食性、耐湿性の評価基準

◎:全く異状なし

〇:極く僅かにフクレまたは錆が発生したもの 端面及びクロスカツト部の数字はフクレまたは錆の侵入深さを示す。

+、一は評価の中間を示す。

表から明らかな如く、塩水噴霧試験や湿潤試験 におけるプリスターの進行程度(ふくれ進行程 度)、即ち各々のアルミめつき付着厚さにおける 端面及びクロスカツト部からのふくれ又は錆の進 10 の1重量%水溶液で10秒間浸漬し、ローラー絞り 行の先端までの距離 (m) が比較例 (No.9, 18, 27.) よりもアミノシランで処理した本発明の実 施例 (Na 1~3, 10~12, 19~21) の方がいずれ も小さく(ふくれ進行程度が遅い)、耐ブリスタ ー性に優れていることが判る。また、処理濃度が 15 2であり、Exp9, 18, 27が同様に比較例である。 1~10重量%では何れも比較例より良好で、本発 明の範囲内では差は無い。

なお、加熱密着性においても向上が認められ た。

実施例 2

実施例1と同様にアルカリ脱脂したアルミメツ キ鋼板をアミノプロピルトリハイドロギシシラン した後、加熱条件を種々変えて検討した。

即ち、100℃で10秒と30秒;150℃で10秒,30 砂,60砂夫々加熱処理した。

Exp4~8, 13~17, 22~26が本発明の実施例 実施例1と同様に耐ブリスター性は従来材より 優れているが、本発明の範囲では加熱処理理が充 分な程、緻密な層が形成されるため耐ブリスター 性は向上していることが判る。